

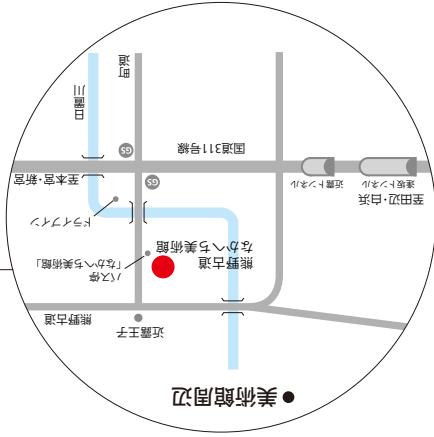


photograph by Hisao Suzuki

熊野古道なかへち美術館
 KUMANOKODO NAKAHECHI MUSEUM of ART
 〒646-1402 和歌山県田辺市中辺路町近露891
 TEL.0739-65-0390
 FAX.0739-65-0393



アケスアツツ・和歌山県周辺



交通案内

龍神/へて「紀伊田辺駅」から「本宮大社前」行に乗り、「なかへち美術館」下車。紀伊田辺駅より約1時間。
 明光/へて「快速 熊野古道号」に乗り、「南紀白浜空港」下車。「紀伊田辺駅」から「なかへち美術館」下車。
 紀伊田辺駅より約1時間。南紀白浜空港より約1時間50分。
 新宮駅より約1時間30分。

- ◎ 観覧料 館蔵品展・小企画展/260円(200円) ただし学生及び18歳未満は無料
- ◎ カッコ内は20名様以上の団体割引料金
- ※ 特別展はその都度料金を決定します。
- ◎ 駐車場 熊野古道なかへち美術館前駐車場をご利用ください。(無料)
- ◎ 休館日 月曜日(祝日または振替休日)とはその翌日・祝日の翌日・12月28日～1月4日
- ◎ 展示替え等の臨時休館があります。

ご利用案内

田辺市立美術館分館
 熊野古道なかへち美術館



photograph by Hisao Suzuki

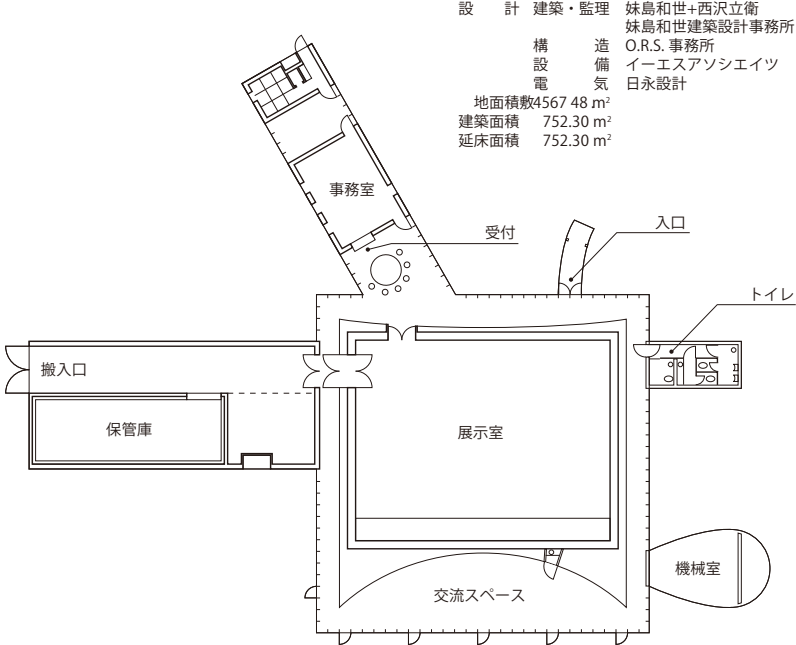


photograph by Hisao Suzuki

熊野古道なかへち美術館は、現在国際的に活躍する建築家ユニット「妹島和世+西沢立衛／SANA A」が最初に手がけた美術館です。美術作品を新しい空間で見せ、アートを通じた交流の場を生み出す、という構想のもと設計され、1998(平成10)年に旧中辺路町立美術館として開館しました。2005(平成17)年から市町村の合併により、田辺市立美術館の分館として新たなスタートをきっています。



photograph by Hisao Suzuki



野長瀬晩花 (のながせ・ばんか)
1889—1964(明治22—昭和39)年

現在の田辺市中辺路町近露に生まれる。本名弘男。14歳で大阪に出て、中川蘆月に入門、蘆秋の号を受ける。1907(明治40)年から京都に移り、谷口香嶠のもとで学ぶ。1909(明治42)年、新設された京都市立絵画専門学校の第一期生として入学、この頃から晩花と号する。同期に土田麦僊、小野竹喬、榊原紫峰、村上華岳らがいた。1911(明治44)年、第16回新古美術展で三等賞を受賞。1918(大正7)年、上記の京都市立絵画専門学校の同期生4名と国画創作協会を創立して展覧会を主宰する。日本画の表現を刷新する作品を次々と発表して注目されるが、1927(昭和2)年の第6回国画創作協会展への出品を最後に画壇から離れた。1930(昭和5)年から度々中国に渡り、そのスケッチを発表する。1946(昭和21)年、疎開中に交流の生まれた長野県の画家や歌人たちと白炎社を結成して活動し、当地の文化活動に貢献した。



《新芽ふく頃》 1918(大正7)年頃

渡瀬凌雲 (わたせ・りょううん)
1904—1980(明治37—昭和55)年

現在の田辺市中辺路町野中を郷里として、父の勤務地長野県で生まれる。本名幸茂。7歳より南画と山水画を学び、12歳の時凌雲の号を与えられる。1924(大正13)年からおよそ7年間、和歌山県内で活動し、この間に漢詩や書を福田静處に師事する。1930(昭和5)年、京都に移り、以後、日本南画院展、帝国美術院展等に出品する。1933(昭和8)年の第14回帝国美術院展に入選した《采藻》がドイツの建築家ブルーノ・タウトの賞賛を得て、著書『日本文化私観』に記載されて広く名が知られるようになった。写生や展覧会開催等のため、中国やヨーロッパ各地を巡歴。1958(昭和33)年からおよそ1年間アメリカに滞在、各地で個展を開くなどして南画を積極的に紹介した。1973(昭和48)年、日本南画院の副理事長、審査員に就任、同年に和歌山県文化功労賞を受けた。



《秋立つ春日野》 1952(昭和27)年